

「新たな総合計画策定」や「福島県の将来の姿」に係る 県民意見

(記号分類 □ = 「暮らし」、△ = 「しごと」、○ = 「ひと」、◇ = 「その他」)

1 【小学生・中学生】(ワークショップ)

- 福島県出身に誇りを
- 平和、幸福度が高い、笑顔、楽しい
- 外国から多くの人がある県
- 都会になりすぎず、自然を残しながら発展
- 子どもも大人も高齢者も自由に伸び伸び
- みんなの願い・やりたいことができる
- 誰もが安全安心に暮らせる
- 伝統を守り発展「福島ならではの文化」
- みんなで協力し合える県にしたい
- 健康な人も、そうでない人も、どんな人でも 住みやすい、生きてて良かったと思える福島県
- 地域のつながりで活気を

2 【高校生】(アンケートより)

- 歴史の誇りが心を癒やし心の復興につながる
- 避難解除により安心して暮らせる県
- 都市部を広げず自然を大切に豊かに暮らせる県
- 公共交通機関の発達が必要
- 若い人向けの大型商業施設や遊ぶ場所が必要
- 県産品の安全性を国内外 PR で風評払拭
- 若い世代が県産品を流通し魅力発信

3 【高校生】(ワークショップ)

- 自分たちが地元を知り、高校生目線の情報発信により新しい福島の魅力を知ってもらう
- 震災を経験した若者だからできることを多くの人、次世代へ伝えていく
- 未来をつくるためには「人との交流」
- 交通の改善がうまくいけば山間部に住みつつ通勤、通学ができる

- 災害時の復興に協力できるボランティア団体を高校生から集め
社会貢献していく
- ◇ 高校生の考えを述べることで、地域を動かせられるという期待を
もてた
- 学んだことは実行してこそ生きるため情報を共有していく

4 【大学生】（ワークショップ）

- 住んでいる人が住んでいてよかったと思える県
- 〇 自分の夢を語り合いかなえたいと思う県
- 生活に生きがいを感じられる県
- 一人一人が楽しく誇りをもって生活できる県
- 〇 人々に活気があり様々な活動にチャレンジができる県
- 高齢者も若者も過ごしやすい県
- 集落や伝統、暮らしを維持することが県民幸せ
- △産業も観光も人々も活力
- 今ある資源を最大限活用
- 〇 地域とのつながりを大切に感じて生活できる県
- お年寄りも現役のように活動する県
- △ 優れた技術を持った企業が活発に活動する 技術立県
- 〇 子どもが笑顔で明るく成長できる県
- ふるさとのありがたさ、出会いの大切さはたから
- 浜・中・会津の特徴ある地域特性
- 〇 若者がわくわくしキラキラと輝いている県
- 〇 地域に関わって感じる人の温かさ

5 【市町村長】

- 浜中会津の特長を活かした均衡ある発展
- 〇 地域、企業の魅力を知る特色ある教育
- 〇 子どもの地域への愛着醸成
- △人材不足対策（若者定着、働く場所確保等）
- 〇 関係人口拡大、移住施策の推進
- ◇ 県独自の誇りあるスローガンを
- 広域的連携は重要な視点
- 防災・減災対策の重要性
- 高齢者対策（交通移動、介護対策）
- 夢、希望、明るい未来のある県づくり
- △ 農業振興（耕作放棄地、担い手確保等）

6 【審議会・部会】

- 「人を育む」「心の豊かさ」が欠かせない観点
- 若い人々の力を生かすことが大切
- 結婚から子育てまで切れ目のない支援
- 多様な出産・子育てへの支援
- 地域のかげがえのなさを学ぶことが重要
- 多様な個の在り方を否定せず、共に助け合う
- 県内の子どもの学習権保障、多様化する子どもへの対応
- 「寛容ですべての人にやさしい社会づくり」は、大変重要で福島でさらに重視されるべきテーマ
- △ 企業の魅力度向上とPRを同時に進める
- △ 医療・福祉では人材不足と偏在が課題
- △ 産業振興と人材育成の連携した支援
- △ 新技術に対応できる人材を育成することが大切
- △ 働く意欲のある障がい者などのマンパワーの活用
- △□ 再生可能エネルギーの更なる研究・技術開発の促進
- 自治体や地域が個性を伸ばす取組への支援
- 圏域や多層性などが重要な概念になる
- 連携を深化させ、まちづくりを進化させる
- 全国の人から憧れられる福島県
- ◇ 風評の払拭に向けた正確な情報発信の継続
- ◇ 県内市町村の希望となるような総合計画
- 暮らしに誇りを持ちチャレンジする、そういう場が必要
- 地域コミュニティや各種団体が主体となるようにすべき
- 挑戦をサポートする人の場づくり、環境づくりが重要
- 孤立させない包摂性が必要
- それぞれのいいところ強みを認め合う社会が必要
- 人とのつながりによる安心や支え合い、学び合い大切

7 【地域懇談会】

- 定住・移住・交流人口拡大の推進
- 子どもへの農業体験等による地域魅力発見や地元愛醸成
- 多様化社会に対応した保育整備や教育環境整備
- △ 異業種交流やネットワーク構築による地域力向上
- あらゆる業種での人材育成・確保や事業継承への対策
- △□ 積極的な情報発信によるPR

- △高齢者を地域資源とした雇用、技術継承等
- 高齢化社会に対応した生活交通手段の確保
- 外国人対応の推進（体験受入、感染症、受入基盤）
- △ 地域資源の発見、磨き上げによる活用
- 不妊、妊活等へのサポートによる少子化対策

8 【子育て世代】（こども未来局アンケートより）

- △県内で就職進学する魅力が必要
- 地域が一体となった世代を超えたふれ合い
- 地元を知り故郷への誇りと愛着をもつ
- 自然、伝統等体験による生きる力を育む
- いじめや社会的弱者への偏見、児童虐待をなくす
- △保育士確保、保育士の質向上、保育施設整備
- 広域的な病児保育体制づくり
- 子育て相談しやすい窓口設置等の環境づくり
- △ 育休取得推進や復職しやすい職場環境づくり
- 障がい児への対応や安心して学べる環境づくり
- △空き教室等を活用した学童保育の充実

9 【首都圏在住者】（移住に関するアンケートより）

- 地域コミュニティー形成等の細やかなサポート
- 移住者に対する移住後のケアが大切
- 自然環境評価高いが、生活環境面は低い。
- 旅行、食品等体験時のイメージが大切
- ◇ それぞれの年齢層への必要な情報発信
- △ 仕事（雇用）が重要、受け皿の充実

10 【県民世論調査】（どのような県になってほしいか）

- 福祉や医療サービスが充実し、お年寄りや障害のある人が大切にされる 40.6%
- 豊かな自然環境が守られている 38.8%
- 教育環境が整い、子どもたちをのびのび育てることができる 37.2%
- 災害や犯罪が少なく、安心して暮らせる 35.0%
- 快適な生活環境の中で暮らせる 33.8%
- △ 産業が盛んで、働く場に恵まれている 29.6%